



私たちは 『買われた』展

- 私が売春していたのは、小6の11月26日から始まり、2年間です。
- 「こいつらに捕まったのが私でよかった」と思うようにしていました。
- "男性" は私を道具としてしか見なかった。
- 「お金ないなら、稼いできてよ」友達がいなくなるのが怖かった私は従った。
- 私から勉強がなくなったら、何も残らないと思った。
- JKビジネスがきっかけで お姉ちゃんに誘われて。
- 体を差し出す代わりにおにぎり一つもらった。

私たちが、いま、
ここに生きていることを知ってほしい。



2017年7月13日(木) 10:00~18:00

会場：矯風会館 1階ホール (入場は閉館 30分前まで)

入場料：一般—前売券 1300円、当日券 1500円 高校生以下—無料

* 前売券の購入・問合せ先：矯風会事務局 169-0073 新宿区百人町 2-23-5

電話 03-3361-0934、FAX 03-3361-1160 <http://kyofukai.jp/>

共催：公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会、ECPAT/ストップ子ども買春の会

《企画展パネル制作：一般社団法人 Colabo、Colabo とつながる少女グループ Tsubomi》

協賛：国連ウィメン日本協会東京、(一社)大学女性協会、日本YWCA、女性会議、
北京JAC、ポルノ被害と性暴力を考える会、ノット・フォー・セール・ジャパン (NFSJ)

売春する中高生について、 どんなイメージを持っていますか？

ある大学で学生たちにそう投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

- 快樂のため
 - 愛情がほしくて
 - その場限りの考えで
 - 遊ぶお金がほしいから
 - 優越感に浸るため
 - 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った
だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
 - 正直、そんな人と関わりたくない
 - どうしてそこまでやれるのか、理解できない
- 当事者のAは言った。
「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。
もう、そんなことでは傷つけなくなった」

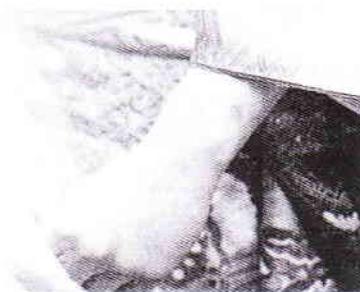


「行くところがないとき、
声をかけてくれるのは男の人だけだった。
頼れるのが、そういう人しかいなかった。
何日も何も食べていなかったから、仕方なかった」(15歳・中学生)

「買った大人への怒りとかいうよりも、
買われる前の背景があることを知ってほしい。
家族や学校、施設で虐待されたり、
ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。
そうでもしないと、生きられなかった」(20歳・高校生)

■Tsubomiとは

Colaboとつながる少女たちのグループです。
中高生世代を中心に、10～20代の女子が活動しています。
企画展では、「売春＝気軽に、遊ぶ金欲しさ」という世間のイメージに
一石を投げるとともに、そこにある暴力や、
その影響を受けて生きる当事者の姿を伝えることで、
SOSに気づける人、背景に目を向ける人を増やしたい。



■一般社団法人Colaboとは

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
虐待や性暴力にあうなどした女子を支える活動を行っています。

■ 矯風会は創立 131 年、日本で一番歴史の長い
女性団体です。キリスト教精神に基づき女性の
視点に立って、全ての人々の平和、特に女性や
子どもの人権が守られるよう活動しています。

具体的には、武力によらない平和、脱原発、
女性・子どもへの性暴力・性搾取問題、アディク
ション問題等に関する啓発活動、国会要請行動
等を行い、また困難な状況下の女性や子どもへ
の支援のため 2 シェルターを運営しています。

■ ECPAT/ストップ子ども買春の会は 1992
年に設立され、国連 NGO である国際
ECPAT の公式連携団体として 25 年間活動
を行っています。児童買春・児童ポルノなど
子どもへの性搾取・性虐待根絶のため、必要
とされる様々なアドボカシー活動（啓発の
ための講演・出版、法整備のためのロビーイ
ング等）や官民協力の推進に努めています。
ホームページ <http://ecpatstop.jp>